

## 第 2 2 回 通常総代会資料（注記表および附属明細書）

### I. 事業報告の附属明細書

### II. 注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
2. 会計上の見積りに関する注記
3. 貸借対照表に関する注記
4. 損益計算書に関する注記
5. 金融商品に関する注記
6. 有価証券に関する注記
7. 退職給付に関する注記
8. 税効果会計に関する注記
9. 収益認識に関する注記

### III. 貸借対照表等の附属明細書

J A 兵庫みらい

※法令および定款第 40 条第 5 項の規定に基づき、ホームページに掲載しています。

# 令和5年度 事業報告の附属明細書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

## 1. 役員に対する報酬等

(単位:千円)

区 分	当期中の報酬等支払額	総代会で定められた報酬等限度額
理 事	70,392	74,000
監 事	17,524	18,000
合 計	87,916	92,000

## 2. 役員等の兼職等(当期末現在)

区 分			氏 名	兼職先名又は 兼業事業名	兼職等先での役職名
役職名	常勤・非常勤 の別	代表権 の有無			
代表理事 組合長	常 勤	有	小紫 康正	全国共済農業協同組合連合会 兵庫県本部運営委員会	委 員
				兵庫県厚生農業協同組合連合会	理 事
				全国農業協同組合連合会 兵庫県本部運営委員会 米穀農産事業委員会	委 員
				兵庫酒米特別地域振興会	会 長
				小野酒米振興会	会 長
				(株)兵庫みらいサービス	代表取締役
				(株)兵庫みらいアグリサポート	代表取締役
代表理事 専務	常 勤	有	高橋 秀	加西酒米振興会	会 長
				一般社団法人 加西市観光協会	理 事
				(株)兵庫みらいサービス	取 締 役
				(株)兵庫みらいアグリサポート	取 締 役
常務理事	常 勤	無	横山 尚平	兵庫酒米特別地域振興会	理 事
				(株)兵庫みらいサービス	取 締 役
				(株)兵庫みらいアグリサポート	取 締 役
				(株)兵庫ネクストファーム	取 締 役
常勤監事	常 勤	/	衣笠 和明	(株)兵庫みらいサービス	監 査 役
				(株)兵庫みらいアグリサポート	監 査 役
				(株)兵庫ネクストファーム	監 査 役

# 注 記 表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1) 次に掲げるものの評価基準および評価方法

#### ① 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準および評価方法

ア. 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法により評価しています。

イ. その他有価証券

・時価のあるもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）により評価しています。

・市場価格のない株式等

移動平均法による原価法により評価しています。

#### ② 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の種類	評価方法
購入品（単品・数量管理品）	総平均法による原価法
購入品（売価管理品）	売価還元法による原価法

貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しています。

### (2) 固定資産の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産

定率法を採用しています。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しています。

#### ② 無形固定資産

定額法を採用しています。

### (3) 引当金の計上基準

#### ① 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている資産査定規程、資産査定事務要領、経理規程および資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。

正常先債権および要注意先債権（要管理債権を含む）については、主として今後1年間の予想損失額または今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間または3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等の必要な修正を加えて算定しています。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。なお、破綻懸念先に対する債権のうち債権の元本の回収に係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、当該キャッシュ・フローと債権の帳簿価額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除した残額との差額を引き当てています。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権およびそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。

すべての債権は、資産査定規程および資産査定事務要領に基づき資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した内部監査部署が査定結果を監査しています。

## ②賞与引当金

職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期負担分を計上しています。

## ③退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき計上しています。

### ア．退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

### イ．数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により計算した額を、発生の翌事業年度から費用処理することとしています。

過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しています。

## ④役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しています。

## ⑤特例業務負担金引当金

農林漁業団体職員共済組合に対して支払う特例業務負担金の支出に充てるため、当期末における特例業務負担金の将来見込額に基づき計上しています。

## （４）収益および費用の計上基準

### 【収益認識関連】

当組合の利用者等との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容および収益を認識する通常の時点は以下のとおりです。

#### ①購買事業

農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、購買品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、購買品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。

#### ②販売事業

組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。

#### ③利用事業

カントリーエレベーター・ライスセンター・育苗センター等の施設を設置して、共同で利用する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、各種施設の利用が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。

## （５）消費税および地方消費税の会計処理の方法

消費税および地方消費税は、税抜方式による会計処理をおこなっています。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は「雑資産」に計上し、5年間で均等償却しています。

## （６）計算書類等に記載した金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。また、金額の全くないものは「-」で表示しています。

## (7) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項

### 【事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について】

当組合は、事業別の収益および費用について、事業間取引を相殺表示していません。よって、事業別の収益および費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則に従い、各事業相互間の内部損益を除去した額を記載しています。

### 【当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について】

購買事業収益のうち、当組合が代理人として購買品の供給に関与している場合には、純額で収益を認識して、購買手数料として表示しています。また、販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しています。また、受託農作業事業収益のうち、当組合が代理人として実施に関与している農作業受委託については、手数料相当額の純額で収益を認識して、受託農作業事業収益として表示しています。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### (1) 繰延税金資産の回収可能性

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 繰延税金資産 563,820 千円（繰延税金負債との相殺前）

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

繰延税金資産の計上は、次年度以降において将来減算一時差異を利用可能な課税所得の見積額を限度としておこなっています。

課税所得の見積額については、令和4年3月に作成した中期経営計画等を勘案し、当組合が将来獲得可能な課税所得の時期および金額を合理的に見積っています。

しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境および組合の経営状況の影響を受ける可能性があり、実際に課税所得が生じた時期および金額が見積りと異なった場合には、翌事業年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

また、税制改正により、実効税率が変更された場合には、翌事業年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

### (2) 固定資産の減損

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 減損損失 3,669 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しています。

減損の要否の判定単位は、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループを最小単位としています。

固定資産の減損の要否の判定における将来キャッシュ・フローについては、収支シミュレーションを勘案して算出しており、収支シミュレーションの期間終了後の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しています。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

### (3) 貸倒引当金

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 貸倒引当金 313,734 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

ア. 算定方法

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(3) 引当金の計上基準」の「貸倒引当金」に記載しています。

イ. 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」です。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しています。

ウ. 翌事業年度に係る計算書類に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

### 3. 貸借対照表に関する注記

【資産に係る圧縮記帳額を直接控除した場合における各資産の資産項目別の圧縮記帳額】

(1) 資産に係る圧縮記帳額の直接控除額は次のとおりです。

(単位:千円)

項 目	金 額
建物	302,631
構築物	15,011
機械装置	355,272
その他の有形固定資産	6,846
合 計	679,761

(注) 平成14年4月1日以降における固定資産の補助金等の圧縮額の累計を計上しています。

【担保に供した資産等】

(2) 為替決済等の担保として、定期預金 4,232,000 千円を差し入れています。

当座貸越の担保として、定期預金 650,000 千円を差し入れています。

指定金融機関および収納事務取扱等の担保として、定期預金 200 千円を差し入れています。

【子会社等に対する金銭債権・債務の総額】

(3) 子会社等に対する金銭債権の総額 162 千円

子会社等に対する金銭債務の総額 276,134 千円

【債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ(2)(i)から(iv)までに掲げるものの額およびその合計額】

(4) 破産更生債権およびこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権および貸出条件緩和債権の額は、次のとおりです。

(単位:千円)

項 目	金 額
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	243,865
危険債権	159,442
三月以上延滞債権	—
貸出条件緩和債権	—
合 計	403,307

(注) 1. 破産更生債権およびこれらに準ずる債権(1)

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。

## 2. 危険債権(2)

債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権((1)に掲げるものを除く。)です。

## 3. 三月以上延滞債権(3)

元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金((1)および(2)に掲げるものを除く。)です。

## 4. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取り決めをおこなった貸出金((1)、(2)および(3)に掲げるものを除く。)です。

5. 上記に掲げた額については、貸倒引当金控除前の金額です。

## 4. 損益計算書に関する注記

### 【子会社等との取引高】

(1) 子会社等との取引による収益総額	29,551千円
うち事業取引高	12,807千円
うち事業取引以外の取引高	16,744千円
(2) 子会社等との取引による費用総額	67,202千円
うち事業取引高	58,173千円
うち事業取引以外の取引高	9,029千円

### 【減損損失】

#### (3) 減損損失に関する注記

##### ① グルーピングの方法と共用資産の概要

当組合では、投資の意思決定を行う単位としてグルーピングを実施した結果、支店については、場所別の管理会計により収支を把握していることから、単独の単位としています。

農業関連施設と営農生活センターは、各地区の一般資産のキャッシュ・フローの生成に寄与していると考えられるため、地区ごとの共用資産としています。

本店、生活関連施設はJ A全体のキャッシュ・フローの生成に寄与していると考えられるため、全体共用資産としています。

賃貸資産および遊休資産については、個別物件単位としています。

##### ② 減損損失を計上した資産の概要と減損損失の内訳

場 所	用 途	種 類	金 額 ( 内 訳 )
旧来住支店 (小野市下来住町)	遊休資産	土地	3,669千円 (土地 3,669千円)

##### ③ 減損損失の認識に至った経緯

上記資産は遊休資産であり、正味売却価額が下落したため、簿価との差額を減損損失として認識しました。

##### ④ 回収可能価額の算定方法等

上記資産の固定資産の回収可能価額については、正味売却価額を採用しており、その時価は固定資産税評価額に基づいて算定しています。

## 5. 金融商品に関する注記

### <金融商品の状況に関する事項>

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当組合は組合員等から預かった貯金を原資に、組合員や地域内の事業者等へ貸付けをおこない、また余裕金を兵庫県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債や社債などの有価証券による運用をおこなっています。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金および有価証券であり、貸出金は、契約不履行によってもたらされる信用リスクがあります。

また、有価証券は、主に債券であり、純投資目的(その他有価証券)で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスクおよび市場価格の変動リスクがあります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

### ①信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件または大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店にリスク管理部審査課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査をおこなっています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価をおこなうとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定をおこなっています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正におこなっています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産および財務の健全化に努めています。

### ②市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析および当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的開催して、日常的な情報交換および意思決定をおこなっています。運用部門は、理事会で決定した運用方針およびALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジをおこなっています。運用部門がおこなった取引についてはリスク管理部門が適切な執行をおこなっているかどうかチェックし、定期的にリスク量の測定をおこない経営層に報告しています。

### 市場リスクに係る定量的情報(トレーディング目的以外の金融商品)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、有価証券のうちその他有価証券に分類している債券および貯金です。

当組合では、これらの金融資産および金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当期末現在、指標となる金利が0.50%下落したものと想定した場合には、経済価値が217,907千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件にかかる未実行金額についても含めて計算しています。

### ③資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクにつ



いては、投資判断をおこなううえでの重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討をおこなっています。

（４）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

<金融商品の時価等に関する事項>

（１）金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当期末における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めていません。

（単位：千円）

種 類	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預金	364,488,486	364,289,784	△198,701
有価証券			
其他有価証券	2,862,310	2,862,310	—
貸出金	52,285,781		
貸倒引当金(*1)	△294,908		
貸倒引当金控除後	51,990,872	52,305,858	314,985
資 産 計	419,341,669	419,457,953	116,283
貯金	422,960,080	422,802,816	△157,264
負 債 計	422,960,080	422,802,816	△157,264

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金です。

（２）金融商品の時価の算定に用いた評価技法の説明

【資産】

① 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ（Overnight Index Swap。以下「OIS」という。）のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

② 有価証券

国債については、活発な市場における無調整の相場価格を利用しています。社債については、公表された相場価格を用いています。

③ 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類および期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

なお、分割実行案件で未実行額がある場合には、未実行額も含めた元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額に、帳簿価額に未実行額を加えた額に対する帳簿価額の割合を乗じ、貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

① 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

(3) 市場価格のない株式等

市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは(1)の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位:千円)

種 類	貸借対照表計上額
外部出資	23,954,890

(4) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

種 類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	364,488,486	—	—	—	—	—
その他有価証券のうち 満期があるもの	100,000	300,000	100,000	300,000	200,000	2,100,000
貸出金(*1,2,3)	4,465,341	3,121,643	2,906,518	2,742,766	2,572,516	36,207,347
合 計	369,053,827	3,421,643	3,006,518	3,042,766	2,772,516	38,307,347

(\*1) 貸出金のうち、当座貸越490,878千円については「1年以内」に含めています。また、期限のない場合は「5年超」に含めています。

(\*2) 貸出金のうち、三月以上の延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等260,268千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(\*3) 貸出金の分割実行案件のうち、貸付決定金額の一部実行案件9,380千円は償還日が特定できないため、含めていません。

(5) 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

種 類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*)	414,962,198	4,144,709	2,866,898	331,294	281,977	373,002

(\*) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

6. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価および評価差額に関する事項

① その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

種 類	取得原価または償却原価	貸借対照表計上額	評価差額	
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	社債	699,541	702,500	2,958
	小 計	699,541	702,500	2,958
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	国債	493,116	466,100	△27,016
	社債	1,899,502	1,693,710	△205,792
	小 計	2,392,618	2,159,810	△232,808
合 計	3,092,159	2,862,310	△229,849	

## 7. 退職給付に関する注記

### (1) 採用している退職給付制度

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づく退職一時金制度に加えて、一般財団法人全国農林漁業団体共済会との契約による農林漁業団体職員退職給付金制度を採用しています。農林漁業団体職員退職給付金制度の積立額は1,219,008千円です。

### (2) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

項目	金額
①期首における退職給付債務	1,216,449
②勤務費用	33,338
③利息費用	—
④数理計算上の差異の発生額	△38,038
⑤退職給付の支払額	△66,482
⑥期末における退職給付債務(①+②+③+④+⑤)	1,145,267

### (3) 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位:千円)

項目	金額
①退職給付債務	1,145,267
②未積立退職給付債務(①)	1,145,267
③未認識過去勤務費用	—
④未認識数理計算上の差異	127,536
⑤貸借対照表計上額純額(②+③+④)	1,272,804
退職給付引当金	1,272,804

(注) 農林漁業団体職員退職給付金制度の積立額は退職給付債務から控除しています。

### (4) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

(単位:千円)

項目	金額
①勤務費用	33,338
②利息費用	—
③数理計算上の差異の費用処理額	△23,220
④過去勤務費用の費用処理額	—
合計(①+②+③+④)	10,118

(注) 農林漁業団体職員退職給付金制度への拠出金83,176千円は「厚生費」で処理しています。

### (5) 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

項目	比率等
①割引率	0.00%
②数理計算上の差異の処理年数	10年
③過去勤務費用の処理年数	5年

### (6) 特例業務負担金の将来見込額

人件費のうち福利厚生費には、厚生年金保険制度および農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)がおこなう特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金26,051千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された令和6年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、208,394千円となっています。

## 8. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等は次のとおりです。  
(単位:千円)

主 な 内 訳		当 期 末
繰延税金資産	個別貸倒引当金繰入超過額	43,487
	役員退職慰労引当金	18,013
	賞与引当金	59,046
	退職給付引当金	354,985
	特例業務負担金引当金	58,112
	土地減損損失	18,572
	減価償却超過額	10,050
	その他有価証券評価差額金	64,105
	その他	76,621
	小 計	702,995
	評価性引当額	△139,175
合 計	563,820	
繰延税金負債	資産除去債務に対応して計上した固定資産	△106
	未払消費税	△1,115
	合 計	△1,222
繰延税金資産の純額		562,598

(2) 法定実効税率

(単位:%)

項 目		当 期 末
法定実効税率		27.89
調 整	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.44
	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△3.59
	住民税均等割	0.51
	評価性引当額の増減	△0.38
	その他	△0.10
税効果会計適用後の法人税等の負担率		24.77

## 9. 収益認識に関する注記

「重要な会計方針に係る事項に関する注記(4)収益および費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

# 令和5年度 貸借対照表等の附属明細書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

## 1. 組合員資本

(単位:千円)

種 類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
出 資 金	3,403,204	164,151	189,317	3,378,038
利 益 剰 余 金	22,267,526	1,810,825	1,048,920	23,029,432
利 益 準 備 金	5,535,000	180,000	-	5,715,000
そ の 他 利 益 剰 余 金	16,732,526	1,630,825	1,048,920	17,314,432
信用事業基盤強化積立金	2,310,000	160,000	-	2,470,000
施設整備積立金	2,000,000	300,000	-	2,300,000
有価証券価格変動積立金	220,000	10,000	-	230,000
災害等対策積立金	500,000	-	-	500,000
農業支援積立金	600,000	200,000	-	800,000
経営基盤強化積立金	500,000	-	-	500,000
合併記念事業積立金	49,234	-	49,234	-
特別積立金	9,130,000	50,000	-	9,180,000
当期末処分剰余金	1,423,292	910,825	999,685	1,334,432
処 分 未 済 持 分	△67,908	△37,418	△33,842	△71,484
合 計	25,602,822	1,937,558	1,204,395	26,335,986

## 2. 固定資産

(単位：千円、%)

種 類		当期首 残 高	当 期 増加額	当 期 減少額 (減損損失)	当期末 残 高	当 期 償却額	減価償却 累計額	償却 累計率
有形 固定 資産	建 物	7,233,063	21,142	61,725	7,192,480	109,127	5,448,179	75.75
	構 築 物	827,251	36,247	9,214	854,284	21,241	713,924	83.57
	機 械 装 置	2,147,632	5,531	20,615	2,132,549	60,958	1,933,127	90.65
	車 両 運 搬 具	85,695	2,469	14,039	74,124	5,789	59,258	79.94
	工具器具備品	525,464	5,535	26,032	504,966	9,954	479,531	94.96
	一括償却資産	1,404	1,988	1,825	1,567	1,825		
	土 地	1,696,001	-	4,092 (3,669)	1,691,908			
	リース資産	37,100	-	-	37,100	6,183	30,916	83.33
	小 計	12,553,611	72,914	137,545 (3,669)	12,488,980	215,080	8,664,939	
無形 固定 資産	回線工事等	1,059	-	146	913	146		
	商 標 権	357	-	45	311	45		
	小 計	1,416	-	192	1,224	192		
合 計		12,555,028	72,914	137,737 (3,669)	12,490,205	215,272	8,664,939	

### 3. 外部出資

(単位：千円)

出 資 先		当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	
系統出資	兵庫県信用農業協同組合連合会	20,298,310	380,000	-	20,678,310	
	兵庫県厚生農業協同組合連合会	6,390	-	-	6,390	
	全国農業協同組合連合会	292,900	-	-	292,900	
	全国共済農業協同組合連合会	2,553,700	-	-	2,553,700	
	全国新聞情報農業協同組合連合会	500	-	500	-	
	農 林 中 央 金 庫	10,100	-	-	10,100	
	小 計	23,161,900	380,000	500	23,541,400	
系統外出資	株式	J A 兵 庫 情 報 セ ン タ ー (株)	1,000	-	-	1,000
		み き や ま (株)	500	-	-	500
		(株) エ フ エ ム 三 木	1,000	-	-	1,000
		(株) 加 西 北 条 都 市 開 発	12,000	-	-	12,000
		(株) 日 本 農 業 新 聞	100	-	-	100
		(株) 農 協 観 光	0	-	-	0
		(株) J A 新 聞 連	-	500	-	500
		(株) 兵 庫 ネ ク ス ト フ ァ ー ム	2,000	-	-	2,000
	その他	兵庫県農業信用基金協会	341,100	4,050	-	345,150
		中央農協教育振興基金	620	-	-	620
		(公社)兵庫県畜産協会	610	-	-	610
		社酒販協同組合	10	-	-	10
	小 計	358,940	4,550	-	363,490	
	子会社等出資	株式	(株) 兵 庫 み ら い サ ー ビ ス	20,000	-	-
(株) 兵 庫 み ら い ア グ リ サ ポ ー ト			30,000	-	-	30,000
小 計		50,000	-	-	50,000	
合 計		23,570,840	384,550	500	23,954,890	

#### 4. 引当金等

(単位:千円)

種 類	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
貸 倒 引 当 金	357,103	313,734	1,971	355,132	313,734
一般貸倒引当金	153,699	135,966	-	153,699	135,966
うち信用事業	151,675	122,637	-	151,675	122,637
うち購買事業	1,625	13,328	-	1,625	13,328
うち販売事業	398	-	-	398	-
個別貸倒引当金	203,404	177,768	1,971	201,432	177,768
うち信用事業	202,785	172,335	1,971	200,814	172,335
うち購買事業	618	5,432	-	618	5,432
賞 与 引 当 金	188,932	183,940	188,932	-	183,940
退 職 給 付 引 当 金	1,329,168	10,118	66,482	-	1,272,804
役員退職慰労引当金	53,682	10,907	-	-	64,589
特例業務負担金引当金	242,697	-	26,051	8,282	208,363
合 計	2,171,583	518,699	283,437	363,414	2,043,431

(注) 貸倒引当金の目的使用以外の当期減少額は、洗替処理によるものです。

特例業務負担金引当金の目的使用以外の当期減少額は、当期末職員数の減少により将来見込額が減少したことによるものです。



## 5. 子会社との取引並びに子会社に対する債権および債務

### (1) 子会社との取引

(単位:千円)

会社名	取引内容	収益総額	費用総額	摘要
(株)兵庫みらいサービス	信用事業	—	3	貯金利息
	購買事業	506	238	葬祭関連
	その他	14,290	—	建物賃貸借等
	小計	14,797	241	
(株)兵庫みらいアグリサポート	信用事業	—	0	貯金利息
	共済事業	53	—	自賠償・自動車共済
	購買事業	6,452	—	購買代金
	販売事業	1,343	—	販売手数料
	利用事業	2,725	—	苗販売代金
	受託農作業事業	1,726	57,931	受託農作業関連
	その他	2,453	9,029	土地・建物賃貸借等
	小計	14,754	66,961	
合計	29,551	67,202		

### (2) 子会社に対する債権および債務

(単位:千円)

会社名	取引内容	債 権			債 務		
		当期首残高	当期末残高	当期増減額	当期首残高	当期末残高	当期増減額
(株)兵庫みらいサービス	購買未収金	26	—	△26	—	—	—
	普通貯金	—	—	—	30,904	25,261	△5,642
	定期貯金	—	—	—	150,376	210,379	60,002
	未払利息	—	—	—	1	1	0
	小計	26	—	△26	181,283	235,643	54,360
(株)兵庫みらいアグリサポート	購買未収金	180	162	△18	—	—	—
	未払金	—	—	—	856	—	△856
	普通貯金	—	—	—	21,306	25,491	4,184
	定期貯金	—	—	—	15,000	15,000	—
	未払利息	—	—	—	0	0	0
	小計	180	162	△18	37,163	40,491	3,327
合計		207	162	△44	218,446	276,134	57,688

## 6. 事業管理費の内訳

(単位:千円)

科 目	内 訳	科 目	金 額
人 件 費	役 員 報 酬		87,916
	給 料 手 当		1,809,483
	うち賞与引当金繰入額		183,940
	福 利 厚 生 費		397,391
	退 職 給 付 費 用		10,118
	役 員 退 職 慰 勞 引 当 金 繰 入 額		10,907
	小 計		2,315,817
業 務 費	会 議 費		7,117
	接 待 交 際 費		2,718
	宣 伝 広 告 費		4,541
	通 信 費		23,288
	印 刷 ・ 消 耗 品 費		20,554
	函 書 ・ 研 修 費		12,091
	事 務 委 託 費		92,103
	旅 費		3,876
	小 計		166,290
諸税負担金	租 税 公 課		94,112
	支 払 賦 課 金		11,049
	分 担 金		60,675
	小 計		165,837
施 設 費	減 価 償 却 費		215,272
	保 守 修 繕 費		91,926
	保 険 料		15,848
	水 道 光 熱 費		43,003
	賃 借 料		67,622
	消 耗 備 品 費		5,934
	車 両 費		19,057
	施 設 管 理 費		44,281
	そ の 他 施 設 費		87
	小 計		503,035
	そ の 他 管 理 費		5,053
	合 計		3,156,034